

資料編

多文化社会人材養成プロジェクトの概要

教育・研究・社会連携の3つの活動を柱に、多文化社会を担う専門人材の養成に取り組みます。教育においては、学部レベルの教育を実施します。研究においては、多言語・多文化社会の課題について研究者と実践者による協働実践研究を推進し、専門人材養成のためのカリキュラム開発や認定制度の確立を目指します。社会連携活動では、教育・研究の成果を活用し社会人リカレント教育や外国人支援等の社会貢献事業を推進します。

多文化社会を担う専門職業人の職種と具体的な人材像は以下のとおりです。

【多文化社会専門人材の職種と人材像】

職 種	人材像
多文化社会 コーディネーター	多文化社会が直面する問題は多岐の分野にわたり複雑に絡み合っています。多文化社会コーディネーターは、個別の問題のみならず社会的な問題の解決のために、日本の多言語・多文化化にかかわる実践知にもとづいて、多様な人々の参加と協働を推進することによって、新たな活動や仕組みを創造する役割を果たす専門職です。
コミュニティ通訳	日本に住む外国人が直面する問題は、行政、教育、医療、法律など多岐の分野にわたります。コミュニティ通訳とは、語学力と通訳・翻訳技能にくわえて、日本の多言語・多文化化にかかわる知識と理解にもとづいて、言語・文化的マイノリティを通訳・翻訳面で支援することによってホスト社会につなげる橋渡し役となる専門職です。
子ども・地域 日本語教育指導者	本学で開講されている日本語教育のカリキュラムに、子ども・地域の観点を取り入れて、日本の多文化社会に寄与できる専門人材の養成をめざします。

「東日本大震災 多言語翻訳・情報提供」活動報告

未曾有の被害をもたらした「東日本大震災」。本センターでは、有志で「災害多言語翻訳支援チーム」を立ち上げて、仙台市の災害情報、放射線被曝に関する基礎知識、入管情報を、日本語を含めて最多で22言語に翻訳しました。また、センターのウェブサイト「多言語災害情報支援サイト」を立ち上げてインターネットでの情報提供も行いました。以下、活動の概略を報告します。

1. 災害情報の多言語翻訳支援活動

【経緯】 3月11日（金）コミュニティ通訳登録者（9言語、23人）に、12日に外大OB・OG・教職員・大学院生が登録している語学ボランティア（26言語、121人）に呼びかけ、翻訳支援チームを立ち上げる。

【活動期間】 3月12日～4月3日（3週間）

【活動参加者】 126人

男 女：男28 女98

外国人：18人／インドネシア、タイ、中国、ブラジル、ロシア、韓国、インド？）

居住国：イギリス、イタリア、オーストラリア、韓国、スペイン、タイ、ドイツ、フランス、ベトナム、ロシア（把握している分のみ）

【翻訳言語】 21言語（日本語以外）／イタリア語、インドネシア語、英語、韓国語、カンボジア語、スペイン語、タイ語、中国語、ドイツ語、ヒンディー語、ビルマ語、フィリピン語、フランス語、ベトナム語、ベンガル語、ペルシア語、ポルトガル語、ポーランド語、マレーシア語、ルーマニア語、ロシア語

【翻訳内容】

●仙台市からの災害情報（仙台市災害対策本部発信）

ライフライン、病院、交通、給水・ごみ・下水道・ガス、火災予防、市役所手続き、児童施設、災害ダイヤル、ボランティアセンター立ち上げ、ごみの収集、がれき置き場、長距離バス、高速バス、り災証明申請書、建物被害認定調査

13日／ライフライン情報、病院情報

14日／交通情報、給水・ごみ・下水道・ガス、火災予防、市役所手続き、児童施設

14日／災害ダイヤル、ボランティアセンター、

15日／ごみの収集、がれき置き場、

16日／長距離バス、高速バス

り災証明申請書

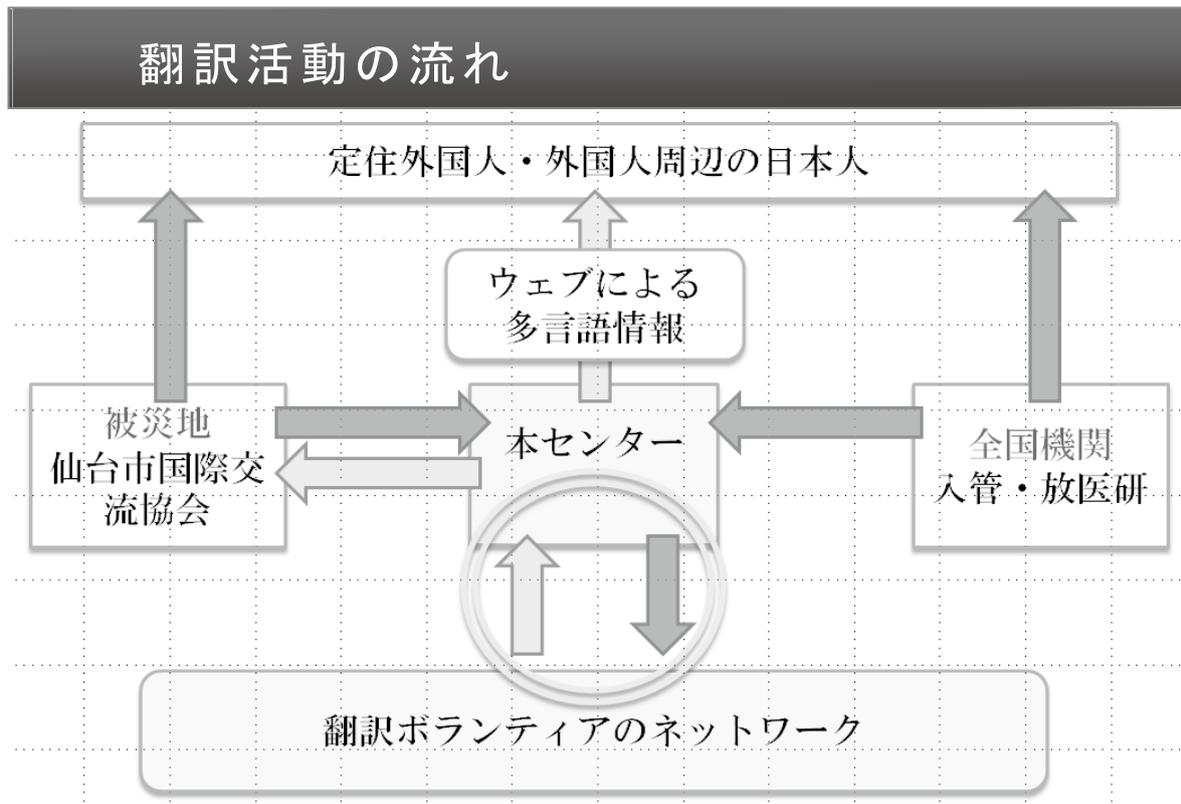
27日／建物被害認定調査

●放射線被曝に関する基礎知識Ⅰ～Ⅴ（放射線医学総合研究所・情報）

●入国管理局からのお知らせ1～3

●日弁連・被災外国人のための電話法律相談チラシ

【翻訳活動の流れ】



2. 「多言語災害情報支援サイト」での情報提供

当初は本センターホームページ上で、さらに3月25日からは災害情報専用の「多言語災害情報支援サイト」を立ち上げて、上記1で翻訳したものを掲載し情報提供を行った。

【情報提供期間】 3月15日～6月30日

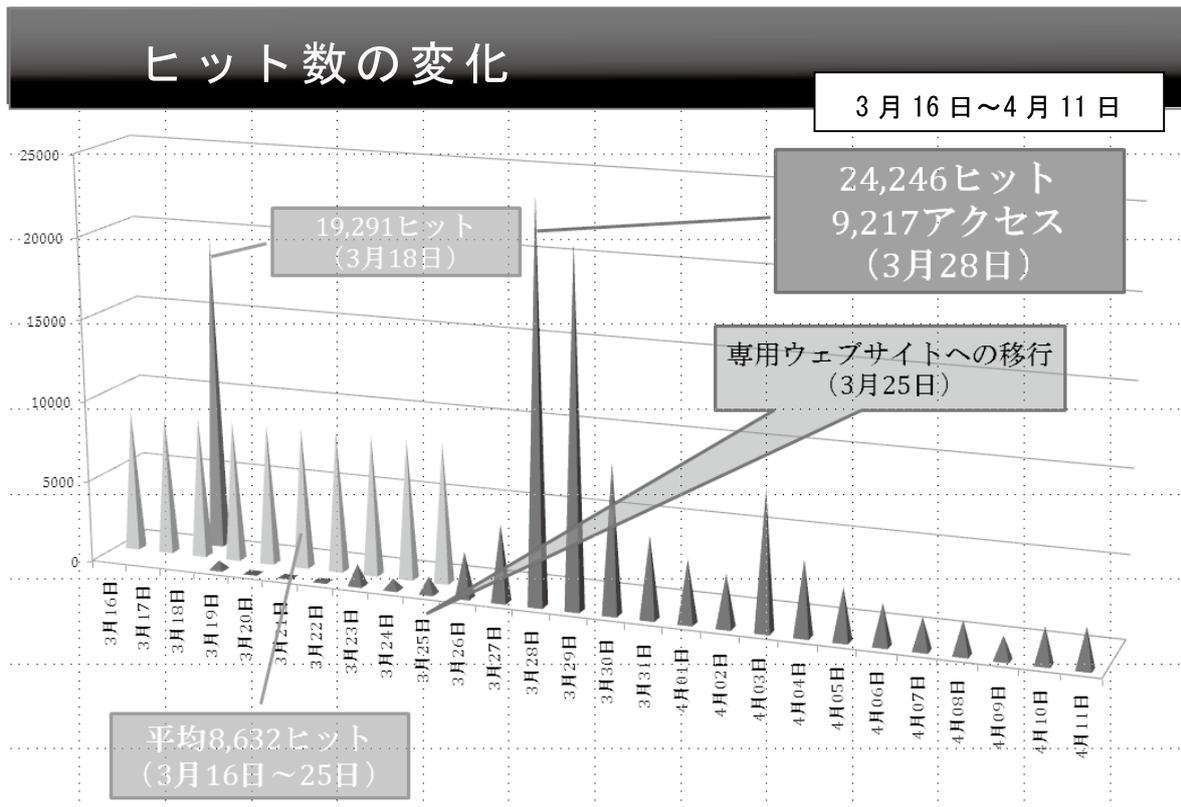
【多言語情報サイトの周知】

- センターのメールマガジン配信（3回）＜号外＞3月16日、18日、23日
- マスコミ等

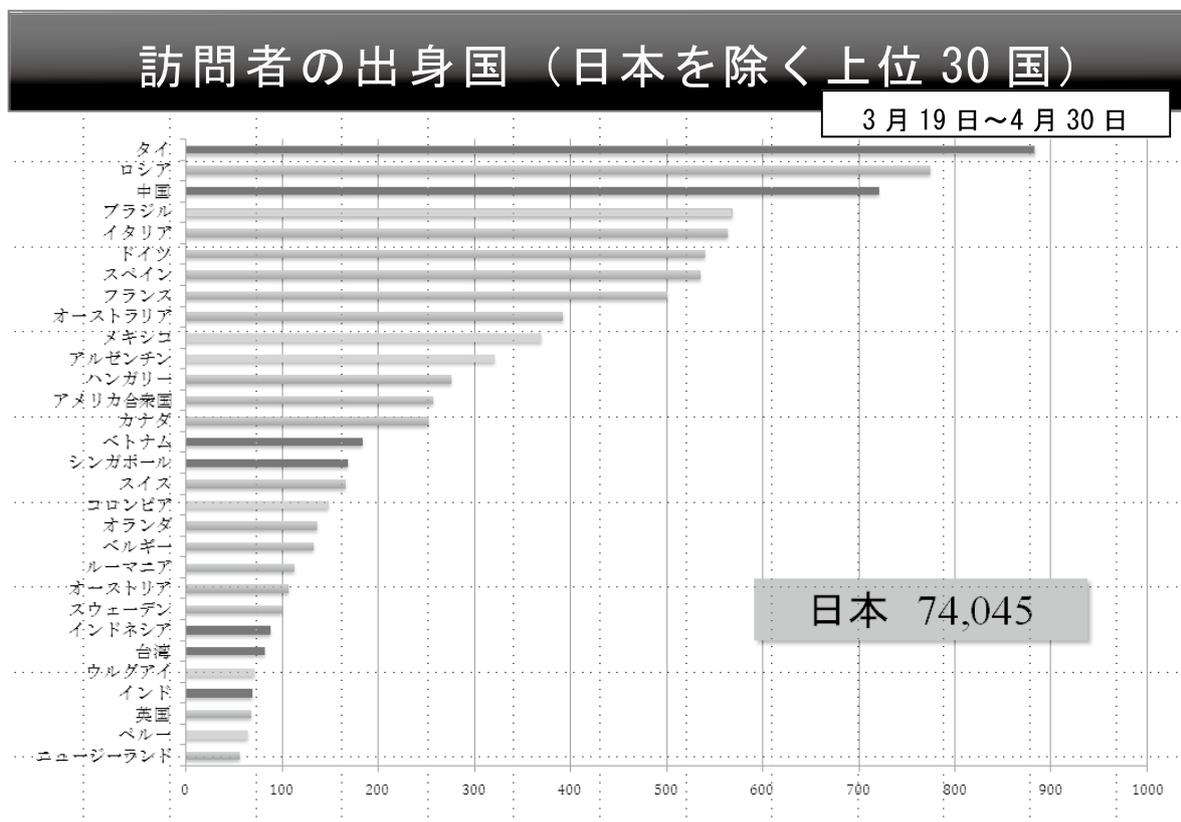
Japan Times	3月19日
日本経済新聞（社説）	3月22日掲載
毎日新聞	3月25日掲載
NHK 昼のニュース	3月28日（インタビュー映像）、29日（文字テロップ）放映
週刊ST	4月1日掲載
朝日新聞	5月25日掲載
国際人流	7月号掲載
その他、時事通信、電気新聞、科学新聞の取材あり	

【アクセス数】 3月16日～25日の10日間／合計86,322件（最多 18日（金）19,291件）
3月末日までの最多ヒット24,246件。
4月3日の翻訳活動終了とともにアクセス数は減少。

● ヒット数の変化



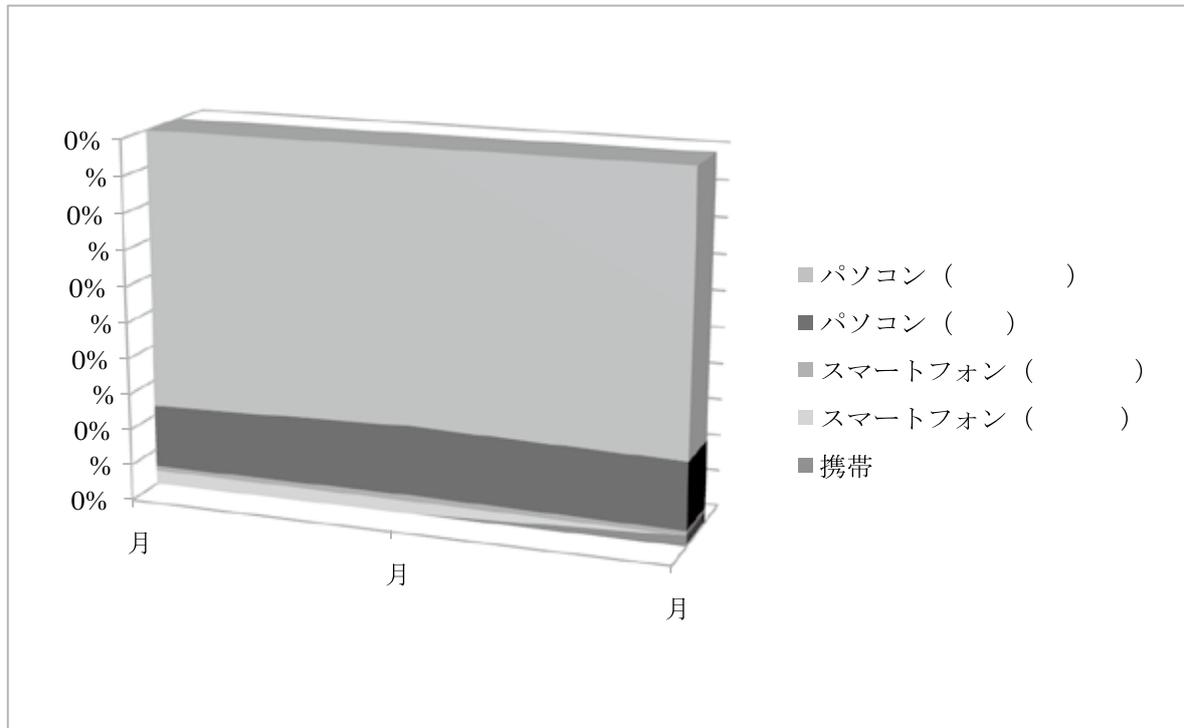
● 訪問者の出身国



●訪問者のアクセス手段

訪問者のアクセス手段

3月19日～5月18日



3. 利用者からのフィードバック

外国人の身近にいる日本人数人からお礼のメールをいただきました。以下、お二人からご本人の了解を得られたものを紹介します。

- インドネシアの国営放送では『放射能は10時間で東京上空に到着する。人体に影響のある量である』と報じたらしく国の親御さんたちがパニックになっています。こんなとき、少しでも母語の情報が安心材料だと思います。(東京都在住)
- 両親がベトナムの方と一緒に仕事をしているのですが、今回の震災についてベトナム人の方々が大変不安を持っておりました。日本人でも難しい今回の原発他の情報は、いくら報道を見ても安心できず、本国からは帰って来いと急かされ、本人たちも帰りたいたいと泣くばかりでした。ベトナム語の翻訳はなかなか見つからず、ほとんど困っているときに、こちらのサイトを見つけ大変助けられました。多少余裕も出来たようで、コピーして友人同士で読んだりしていたようです。(栃木県在住)

4. 活動から見えてきたこと

●多言語翻訳情報提供に求められる視点

- ・「住民レベルの情報（ローカルな情報）」と「国レベルの情報」の両方が必要
- ・外国人住民が必要としている情報として何をどう選択するのか的確な判断が必要
- ・緊急を要する情報について、「正確性」と「迅速性」の両方を担保する仕組みが必要
ボランティア活動の場合、あくまでも自発的な活動であり、翻訳力のチェックがされているわけではない。本学の場合、言語別チームを作りネイティブチェックを含め相互にチェックし合う仕組みで行った。正確性が担保できないと思われる内容については、翻訳しないという選択を行うチームもあった。

●日常の活動の重要性

災害時情報は日常活動の集積であるため、災害時に通訳・翻訳面で即応するためには日常的に活動を行っていることが重要。

●顔の見えるネットワーク構築の重要性

平常時に信頼関係が築けていることにより、安心して協力ができ、また支援される方も気軽に支援依頼ができる。

●専門人材の必要性

- ・正確で迅速な翻訳を行うためには、高い語学力（翻訳力）を有する人材が必要である。
- ・平常時におけるネットワークの構築を通して、現場で求められている情報を把握し、適切な情報を提供すること、また、ボランティア活動を有効で有意なものにするためには、連携と協働を創り出せるコーディネーターが必要である。

学生による災害ボランティア活動報告

本センターでは、本学の地震緊急対策本部の依頼を受け、学生による災害ボランティア活動を推進するため、4月～6月の間に3回にわたって現地でのボランティア活動を希望する学生に対して活動の心構えや留意点を学ぶための「震災ボランティア講習会」を開催した。

5月に本センター職員が宮城県石巻市で活動するボランティア団体「みなと応援村」を訪問し、7月下旬に6名の学生（他職員1名が随行）の送り出しを行った。これを契機に、「みなと応援村」の協力を得て来年3月まで学生の継続的な送り出しを行うことになり、また、現地でのボランティア活動経験者を中心に学生グループ「TUFSTEAM-for-3.11」が立ち上がった。現在は、すでに東北で活動していた学生ボランティアサークル「外大東北復興支援隊」や総合ボランティアサークル「PeeKaBoo」も加わり、学生の主体的活動として広がりを見せている。

活動の概要

◎震災ボランティア講習会の開催

- 第1回 4月28日（水） 参加人数：62人
- 第2回 5月19日（木） 参加人数：29人
- 第3回 6月29日（水） 参加人数：58人

◎現地調査（石巻市における学生ボランティア受け入れの可能性調査）

5月24日～26日

◎学生向け震災ボランティア送り出しのためのオリエンテーション

- 第1回 10月12日（水） 参加人数：24人
- 第2回 10月27日（木） 参加人数：13人
- 第3回 11月10日（木） 参加人数：20人
- 第4回 11月25日（金） 参加人数：14人
- 第5回 12月9日（金） 参加人数：14人
- 第6回 2月14日（火） 参加人数：10人

◎学生の震災ボランティア送り出し

- 1期 7月25日（月）～28日（木） 参加人数：6人（随行1人）
- 2期 10月21日（金）～24日（月） 参加人数：4人
- 3期 11月4日（金）～7日（月） 参加人数：7人
- 4期 11月20日（日）～23日（水） 参加人数：5人
- 5期 12月2日（金）～5日（月） 参加人数：6人
- 6期 12月16日（金）～19日（月） 参加人数：7人
- 7期 12月23日（金）～26日（月） 参加人数：5人
- 8期 1月13日（金）～16日（月） 参加人数：4人

■その他の活動■

- 留学生との連携による「震災対応プロジェクト」
11月16日～3月2日 参加人数：延べ9人
- 子どもとの活動におけるリスクマネジメント講演会
12月21日（水） 参加人数：12人
- 震災ボランティア活動の様子 展示
12月～3月 研究講義棟1階ロビー



側溝の掃除を手伝う（7月 石巻市にて）

多文化社会実践研究・全国フォーラム(第5回) 報告書

発行日 2012年3月30日

発行 東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター
〒183-8534

東京都府中市朝日町3-11-1 研究講義棟319室

TEL : 042-330-5441 FAX : 042-330-5448

E-mail : tc@tufs.ac.jp

URL : <http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/>